

施設整備コンセプト・基本方針について

原野谷学園小中一貫校 整備コンセプト

原野谷からはじまる、夢と希望に向かう新たな共創のまなび舎

- 小中一貫教育の研究（小・中学校が強く連携し、一貫性のある教育を実施する）は、原野谷学園で早くから進められており、新しい学校についても掛川市において小中一貫校のモデルとなる学校づくりを目指します。
- 児童生徒ワークショップでは『夢』というキーワードが多く出されました。これらの意向を尊重し、普段から学校で学び、生活する子どもたちが、前向きに過ごすことができる学校づくりを目指します。
- 原野谷が育んできた児童・生徒の縦と横のつながり、そして地域とのつながりを活かした協働的な学びを実現する学校づくりを目指します。

基本方針（案）

1 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間づくり

- 児童生徒の興味・関心を大切にし、個性を活かした探求の場づくり
- コミュニケーションを大切にした協働的な学びの場づくり
- 9年間見通し、縦割りレクリエーション等で培った異年齢交流の場づくり
- 児童生徒と教職員の日常的な信頼関係において、学び～生活まで相談できる環境づくり
- 企業等との連携・協働による総合的な学習
- 明るく温かな雰囲気でも過ごしやすい、ゆとりのある教室
- 柔軟に対応できる多目的スペース
- 読書・学習・情報のセンターとなる魅力的な学校図書館（ラーニングセンター）

2 児童生徒の心のゆとりを生む、健やかな学習・生活空間づくり

- 児童生徒の居場所となる空間づくり
- 児童生徒がリラックスできる空間づくり
- 児童生徒の多様化の対応
- 食を楽しむ・学ぶ
- 運動・部活を楽しむ
- 快適な校内環境
- 清潔感のある快適なトイレ・更衣室

3 まわりの豊かなみどりに調和し、自然を感じることでできる施設づくり

- 周辺環境との調和を意識した施設

4 地域とのつながり・交流を大切にし、ともに創造する共創空間づくり

- 地域の活動・交流拠点
- 公共施設等の複合化・共用化
- 伝統文化の継承

5 児童生徒の安心・安全に配慮した地域の防災拠点づくり

- 通学路の安全確保
- 子どものセキュリティ
- 避難所機能の充実（自家発電、情報通信設備など）
- バリアフリーに配慮した施設

6 先生の働き方に配慮した学校づくり

- 多様な働き方に対応した快適な職場環境
- 教育体制等の改善

原野谷小中一貫校の必要面積（試算）

- 令和 10 年度における児童・生徒数推計（児童数：213 名、生徒数 149 名）を基に算出した結果、
 小中一貫校の校舎必要面積は 9,240 m²、施設面積の合計は 12,650 m²、グラウンド必要面積（小
 中合計）は 6,000 m²となります。
- 上記の学校施設面積と合わせて、プール、遊具広場、テニスコート、駐車場、スクールバス乗降
 場、複合化施設等を整備するためには、必要な校地面積は 30,680 m²（約 30,000 m²）程度の面積
 が必要となります。なお、修景緑地・外周部の緑地帯の面積は含んでおりません。

【表 原野谷小中一貫校の必要面積】

	項目	児童 生徒数	学級数	必要な施設面積			必要な校地面積
				施設面積	校舎計	施設面積 の合計	建築物の必要校地面積 (建ぺい率50%算定)
小学校	① 校舎	213	12	3,880	5,170	5,170	3,450
	② 特別支援教室		3	500			
	③ 多目的教室及び少人数授業用教室			790			
	④ 体育館(屋内運動場)			920	920	1,840	
	⑤ グラウンド(屋外運動場)			2,400		2,400	
	⑥ プール 小			700		700	
	⑦ 駐車場(30台)			900		900	
	⑧ 遊具広場			2,000		2,000	
小学校計						6,090	11,290
中学校	⑨ 校舎	149	6	3,180	4,070	4,070	2,710
	⑩ 特別支援教室		3	500			
	⑪ 多目的教室及び少人数授業用教室			390			
	⑫ 体育館(屋内運動場)			1,140	1,140	2,280	
	⑬ グラウンド(屋外運動場)			3,600		3,600	
	⑭ プール 大			1,500		1,500	
	⑮ 武道場			450	450	900	
	⑯ テニスコート			2,400		2,400	
	⑰ 部室等			200	200	400	
	⑱ 駐車場(30台)			900		900	
⑲ 駐輪場		150		150	300		
中学校計						6,010	14,990
複合化施設	生涯学習センター					400	800
	学童保育所					150	300
一般駐車場(60台(学童保育所送迎用・地域利用))				1,800			1,800
スクールバス乗降場				1,500			1,500
一貫校計		362			9,240	12,650	30,680

義務法運用細目(公立学校施設費国庫負担金等に関する関係法令等の運用細目)、小学校・中学校設置基準より算出。
 建物敷地は校舎を3階建、その他の施設は1階建てを想定した場合。

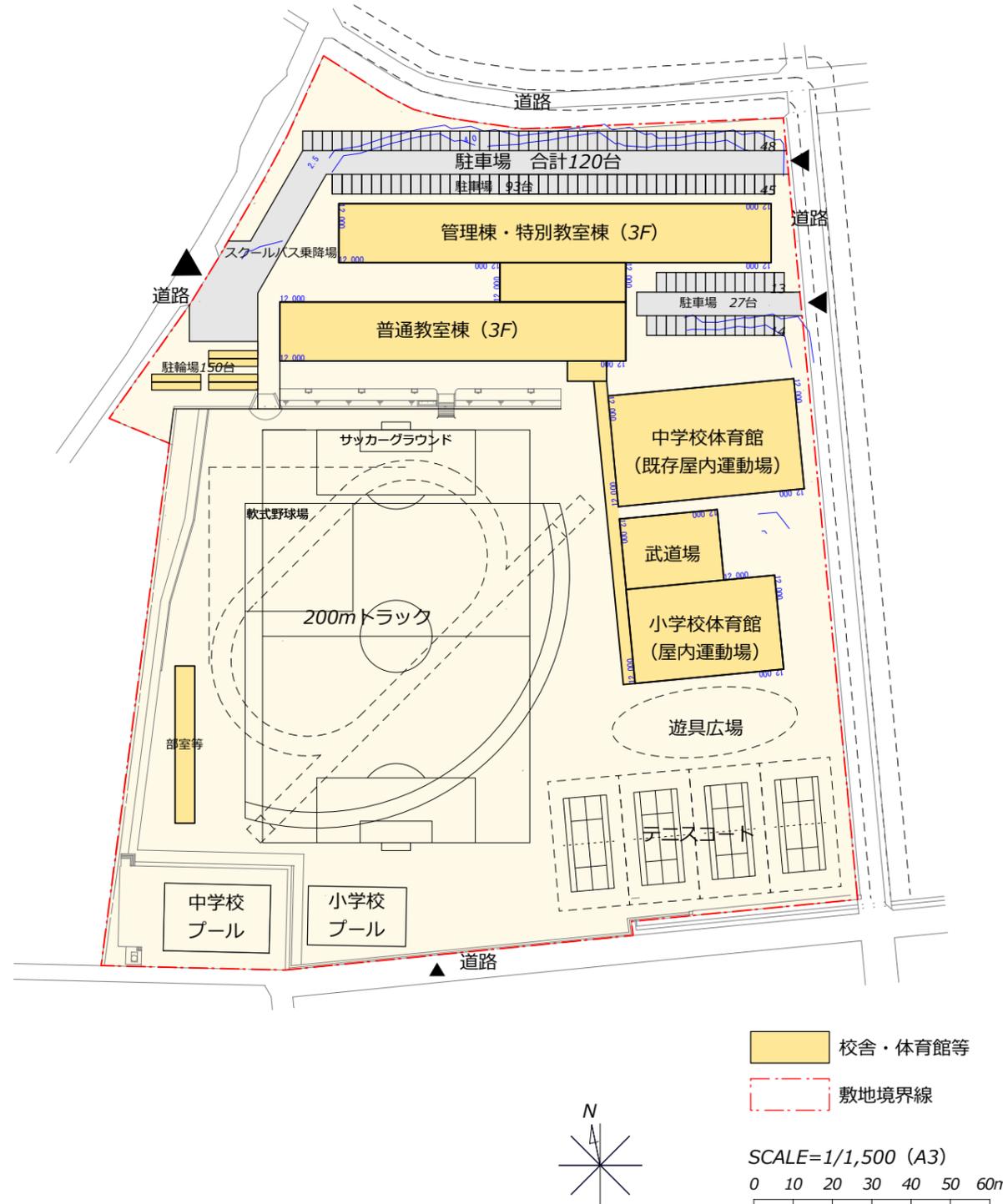
■ 校舎等の配置イメージ図 (例)

本図は配置イメージ図の一例であり、具体的な配置計画・平面計画は基本設計段階にて検討します。

候補地 1 : 原野谷中学校

候補地の面積 : 31,707㎡ (台帳面積)
 校舎 : 3階建て、延床面積 9,240㎡ (複合化施設含む)
 体育館 : 小学校体育館 920㎡、中学校体育館は既存施設

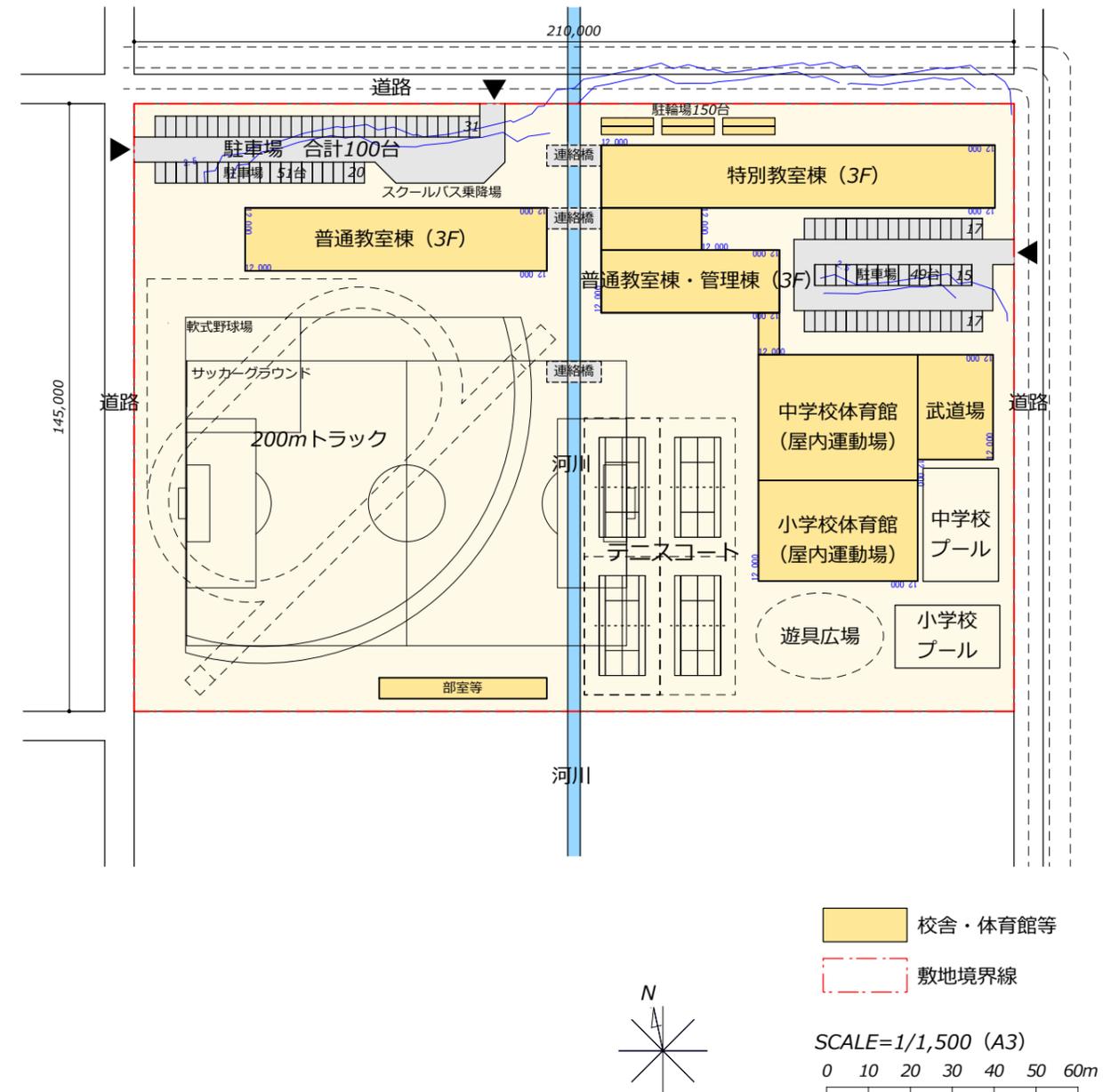
・ゆとりある学校施設の配置、環境整備の検討が可能である。



候補地 3 : 市営住宅原谷団地南方の農地

候補地の面積 : 約30,000㎡
 校舎 : 3階建て、延床面積 9,240㎡ (複合化施設含む)
 体育館 : 小学校体育館 920㎡、中学校体育館 1,140㎡

- ・敷地が普通河川 (法定外河川) をまたぐこととなるため、必要なスペースを確保することができない。
- ① サッカーグラウンドが配置できない。
- ② 軟式野球場や200mトラックと普通教室棟との間に十分な距離が保てない。
- ・河川の両側を繋ぐ連絡橋の整備が必要となる。
- ・土地利用現況が農用地の場合は、土地を買収、転用、造成するためには、農振除外、開発手続きが必要になり期間を要する。



■校舎等の配置イメージ図（例）

本図は配置イメージ図の一例であり、具体的な配置計画・平面計画は基本設計段階にて検討します。

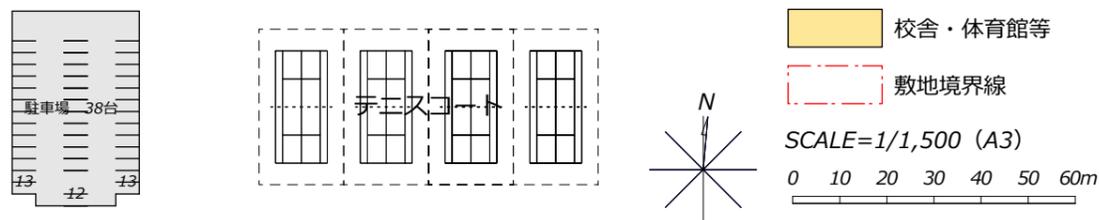
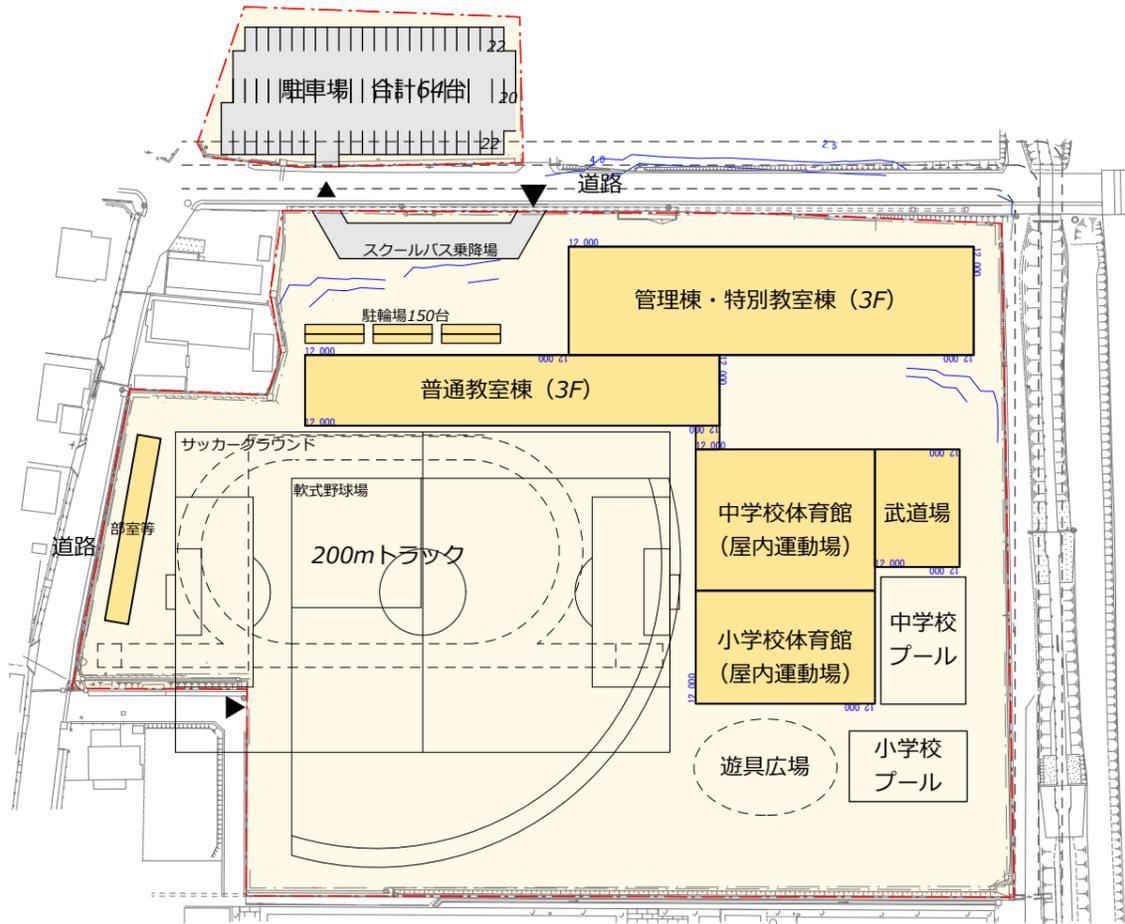
候補地 2 - 1 : 原谷小学校

候補地の面積 : 23,474㎡ (台帳面積)

校舎 : 3階建て、延床面積 9,240㎡ (複合化施設含む)

体育館 : 小学校体育館 920㎡、中学校体育館 1,140㎡

- ・敷地が狭く、必要なスペースを確保することができない。
- ①軟式野球場とサッカーグラウンドが配置できない。
- ②軟式野球場とサッカーグラウンドを配置しない場合でも、テニスコート1面分が配置できない。
駐車場台数も120台分を確保できない。
- ③軟式野球場のスペースを確保しようとすると駐車場38台とテニスコート3面も配置できない。
- ④200mトラックが敷地スペース一杯となり、普通教室棟との間に十分なスペースが確保できない。

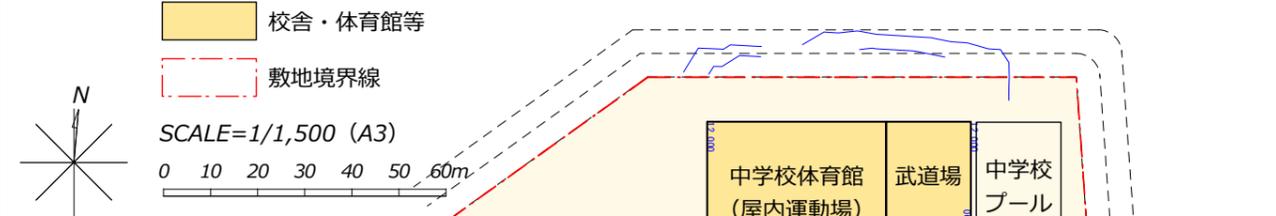
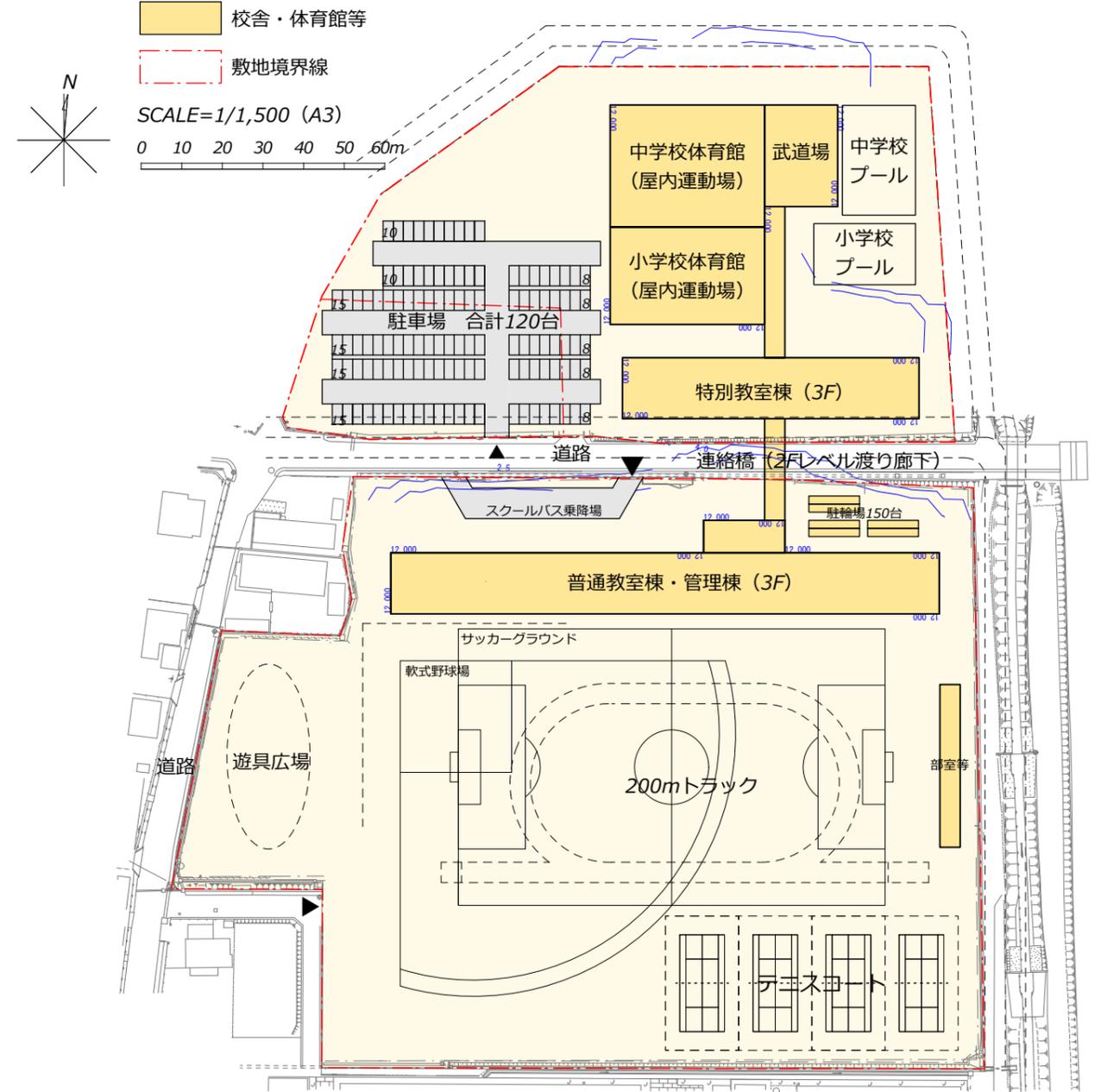


候補地 2 - 2 : 原谷小学校 + 北面の農地

候補地の面積 : 33,274㎡ (23,474㎡ + 9,800㎡)

校舎 : 3階建て、延床面積 9,240㎡ (複合化施設含む)

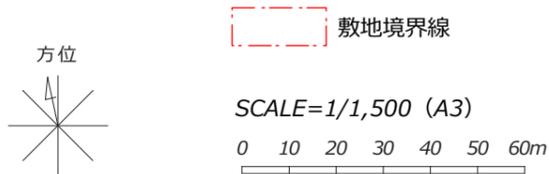
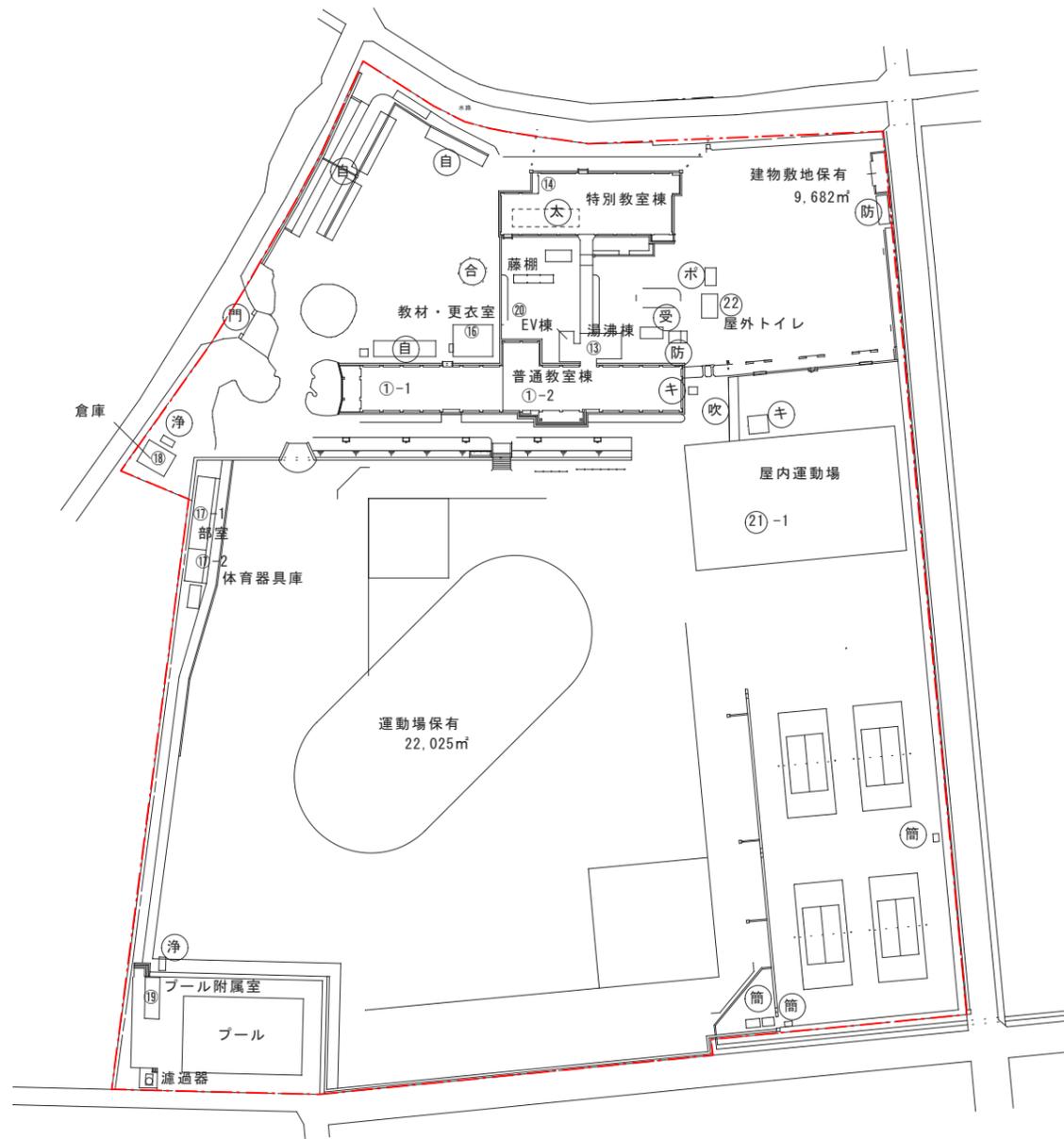
体育館 : 小学校体育館 920㎡、中学校体育館 1,140㎡



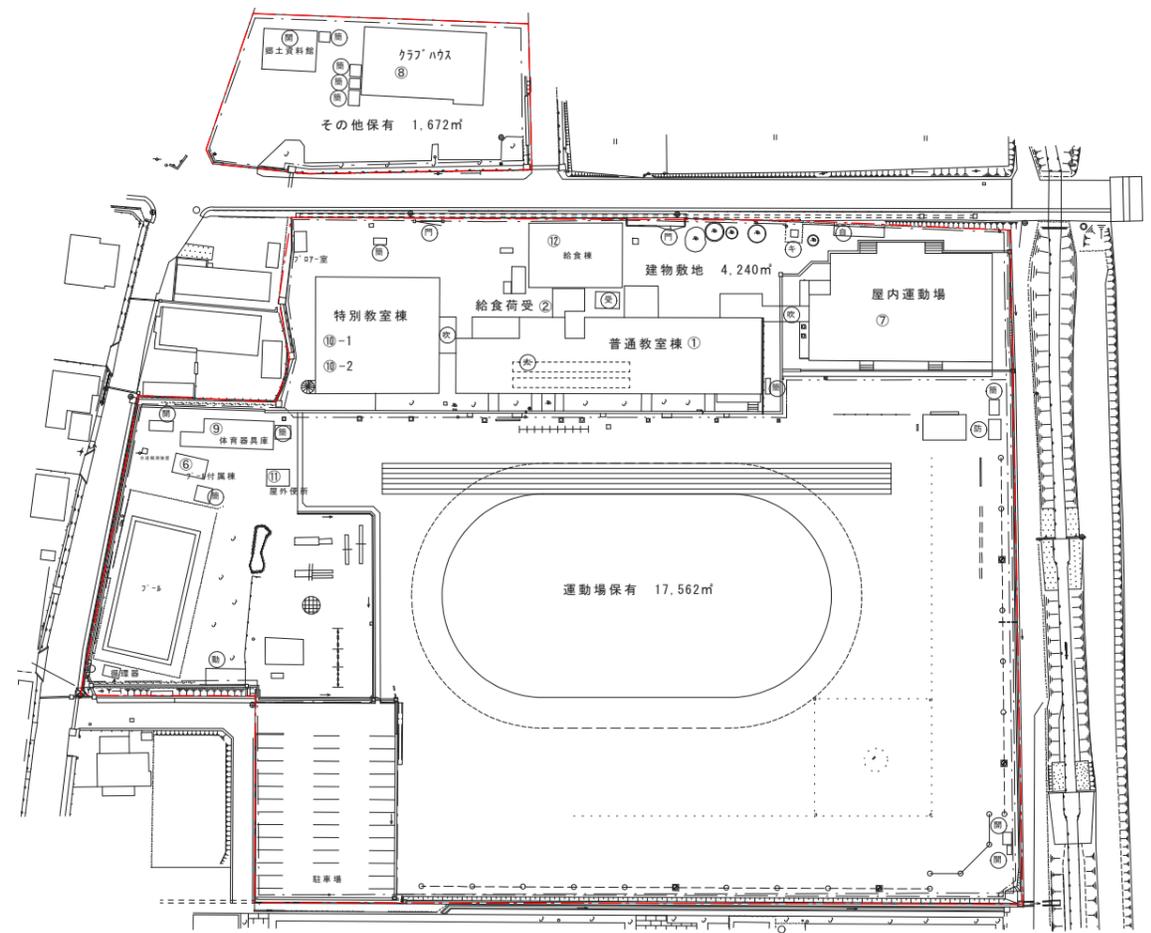
- ・候補地 2 - 1 と比べて敷地面積が増えていることから、施設配置に余裕が出来ているが、敷地が二分されることから、校舎や体育館の一体的な配置ができない。
- ・軟式野球場とサッカーグラウンドと普通教室棟・管理棟の間に十分な距離が保てない。
- ・道路を横断するための連絡橋の整備が必要である。
- ・原谷小北側の農地はすべて青字農地であり、土地を買収、転用、造成するためには、農振除外、開発手続きが必要になり期間を要する。

■原野谷中学校・原谷小学校の敷地現況

原野谷中学校



原谷小学校



通学手段別児童生徒数の試算

資料3-1

■候補地1 原野谷中学校の場合

スクールバス等の通学手段となる児童生徒数の合計	35人
児童生徒数の合計	362人
スクールバス等の通学手段となる児童生徒数割合	9.7%

※児童生徒数は、令和10年の児童生徒数の人口推計結果

■試算根拠

児童数

行政区	児童数 (推計)	徒歩圏域 割合
寺島	15人	100%
桑地	1人	100%
栃原	3人	100%
高山	9人	95%
正道	0人	95%
平島	10人	0%
久居島	2人	0%
中西之谷	0人	0%
上西之谷	2人	0%
田代・柚葉・明ヶ島	0人	0%
本郷西	39人	100%
本郷東	48人	100%
細谷	27人	75%
幡鎌	7人	100%
西山	24人	100%
本郷南	19人	100%
サングリーン	7人	100%
合計	213人	

割合

通学手段別児童生徒数

徒歩	スクールバス等
15人	0人
1人	0人
3人	0人
8人	1人
0人	0人
0人	10人
0人	2人
0人	0人
0人	2人
0人	0人
39人	0人
48人	0人
20人	7人
7人	0人
24人	0人
19人	0人
7人	0人
191人	22人
89.7%	10.3%

生徒数

行政区	生徒数 (推計)	徒歩・自転車 圏域割合
寺島	13人	100%
桑地	3人	100%
栃原	2人	100%
高山	6人	100%
正道	1人	100%
平島	12人	25%
久居島	1人	50%
中西之谷	0人	75%
上西之谷	3人	0%
田代・柚葉・明ヶ島	0人	0%
本郷西	34人	100%
本郷東	22人	100%
細谷	14人	100%
幡鎌	2人	100%
西山	15人	100%
本郷南	19人	100%
サングリーン	2人	100%
合計	149人	

割合

徒歩・自転車	スクールバス等
13人	0人
3人	0人
2人	0人
6人	0人
1人	0人
3人	9人
0人	1人
0人	0人
0人	3人
0人	0人
34人	0人
22人	0人
14人	0人
2人	0人
15人	0人
19人	0人
2人	0人
136人	13人
91.3%	8.7%

※通学手段の圏域割合は、令和2年度の人口分布状況と候補地からの距離で設定

※黄色ハッチは、スクールバス通学となる可能性のある行政区を示す

通学手段別児童生徒数の試算

■候補地2 原谷小学校の場合

スクールバス等の通学手段となる児童生徒数の合計	39人
児童生徒数の合計	362人
スクールバス等の通学手段となる児童生徒数割合	10.8%

※児童生徒数は、令和10年の児童生徒数の人口推計結果

■試算根拠

児童数

行政区	児童数 (推計)	徒歩圏域 割合
寺島	15人	100%
桑地	1人	100%
栃原	3人	50%
高山	9人	5%
正道	0人	0%
平島	10人	0%
久居島	2人	0%
中西之谷	0人	0%
上西之谷	2人	0%
田代・柚葉・明ヶ島	0人	0%
本郷西	39人	100%
本郷東	48人	100%
細谷	27人	100%
幡鎌	7人	100%
西山	24人	100%
本郷南	19人	100%
サングリーン	7人	100%
合計	213人	

割合

通学手段別児童生徒数

徒歩	スクールバス等
15人	0人
1人	0人
1人	2人
0人	9人
0人	0人
0人	10人
0人	2人
0人	0人
0人	2人
0人	0人
39人	0人
48人	0人
27人	0人
7人	0人
24人	0人
19人	0人
7人	0人
188人	25人
88.3%	11.7%

生徒数

行政区	生徒数 (推計)	徒歩・自転車 圏域割合
寺島	13人	100%
桑地	3人	100%
栃原	2人	100%
高山	6人	100%
正道	1人	95%
平島	12人	25%
久居島	1人	0%
中西之谷	0人	0%
上西之谷	3人	0%
田代・柚葉・明ヶ島	0人	0%
本郷西	34人	100%
本郷東	22人	100%
細谷	14人	100%
幡鎌	2人	100%
西山	15人	100%
本郷南	19人	100%
サングリーン	2人	100%
合計	149人	

割合

徒歩・自転車	スクールバス等
13人	0人
3人	0人
2人	0人
6人	0人
0人	1人
3人	9人
0人	1人
0人	0人
0人	3人
0人	0人
34人	0人
22人	0人
14人	0人
2人	0人
15人	0人
19人	0人
2人	0人
135人	14人
90.6%	9.4%

※通学手段の圏域割合は、令和2年度の人口分布状況と候補地からの距離で設定

※黄色ハッチは、スクールバス通学となる可能性のある行政区を示す

通学手段別児童生徒数の試算

■候補地3 市営住宅原谷団地南方の農地の場合

スクールバス等の通学手段となる児童生徒数の合計	50人
児童生徒数の合計	362人
スクールバス等の通学手段となる児童生徒数割合	13.8%

※児童生徒数は、令和10年の児童生徒数の人口推計結果

■試算根拠

児童数

行政区	児童数 (推計)	徒歩圏域 割合
寺島	15人	75%
桑地	1人	75%
栃原	3人	0%
高山	9人	0%
正道	0人	0%
平島	10人	0%
久居島	2人	0%
中西之谷	0人	0%
上西之谷	2人	0%
田代・柚葉・明ヶ島	0人	0%
本郷西	39人	100%
本郷東	48人	100%
細谷	27人	100%
幡鎌	7人	100%
西山	24人	100%
本郷南	19人	100%
サングリーン	7人	100%
合計	213人	

割合

通学手段別児童生徒数

徒歩	スクールバス等
11人	4人
0人	1人
0人	3人
0人	9人
0人	0人
0人	10人
0人	2人
0人	0人
0人	2人
0人	0人
39人	0人
48人	0人
27人	0人
7人	0人
24人	0人
19人	0人
7人	0人
182人	31人
85.4%	14.6%

生徒数

行政区	生徒数 (推計)	徒歩・自転車 圏域割合
寺島	13人	100%
桑地	3人	100%
栃原	2人	100%
高山	6人	75%
正道	1人	50%
平島	12人	0%
久居島	1人	0%
中西之谷	0人	0%
上西之谷	3人	0%
田代・柚葉・明ヶ島	0人	0%
本郷西	34人	100%
本郷東	22人	100%
細谷	14人	100%
幡鎌	2人	100%
西山	15人	100%
本郷南	19人	100%
サングリーン	2人	100%
合計	149人	

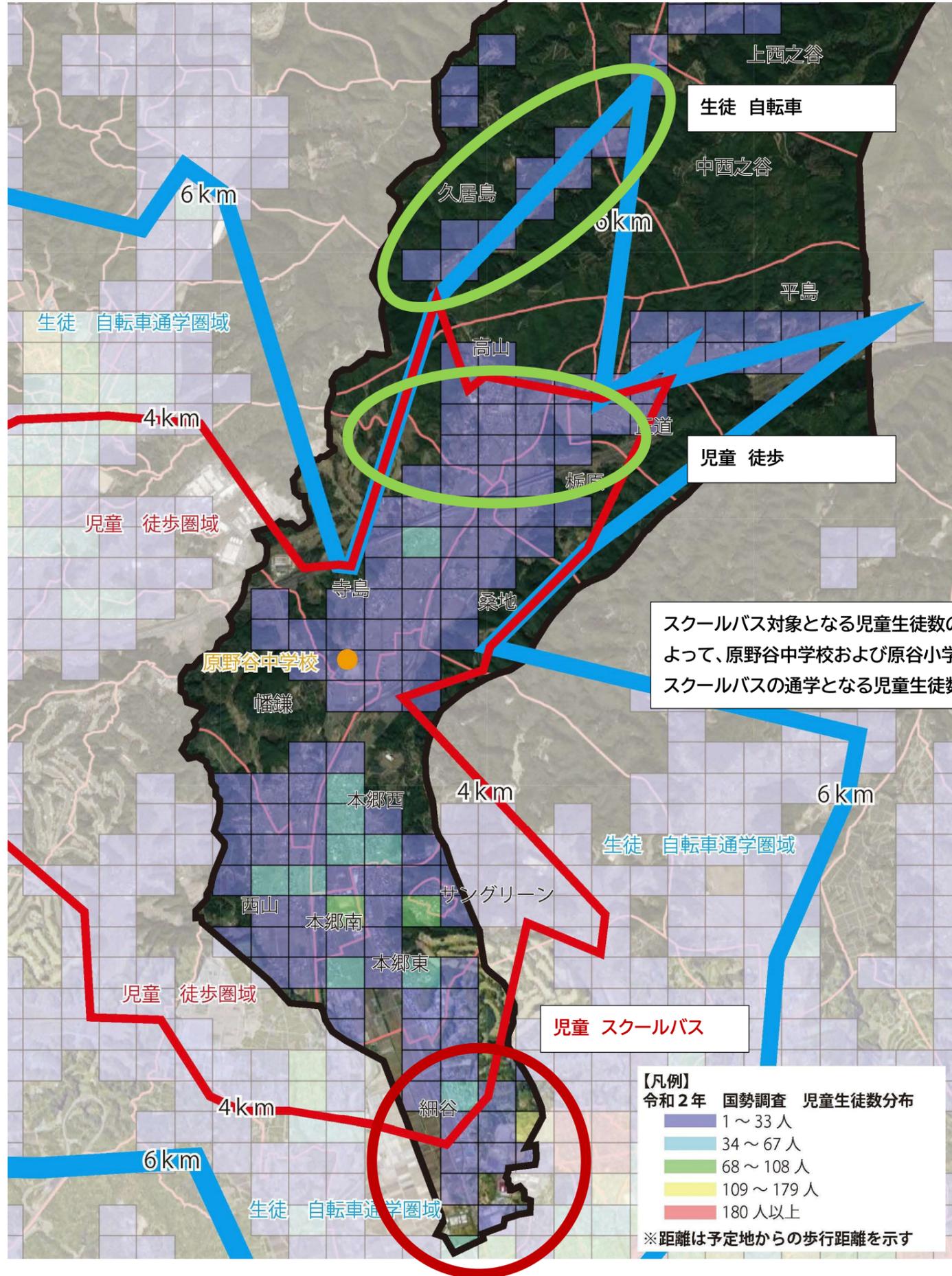
割合

徒歩・自転車	スクールバス等
13人	0人
3人	0人
2人	0人
4人	2人
0人	1人
0人	12人
0人	1人
0人	0人
0人	3人
0人	0人
34人	0人
22人	0人
14人	0人
2人	0人
15人	0人
19人	0人
2人	0人
130人	19人
87.2%	12.8%

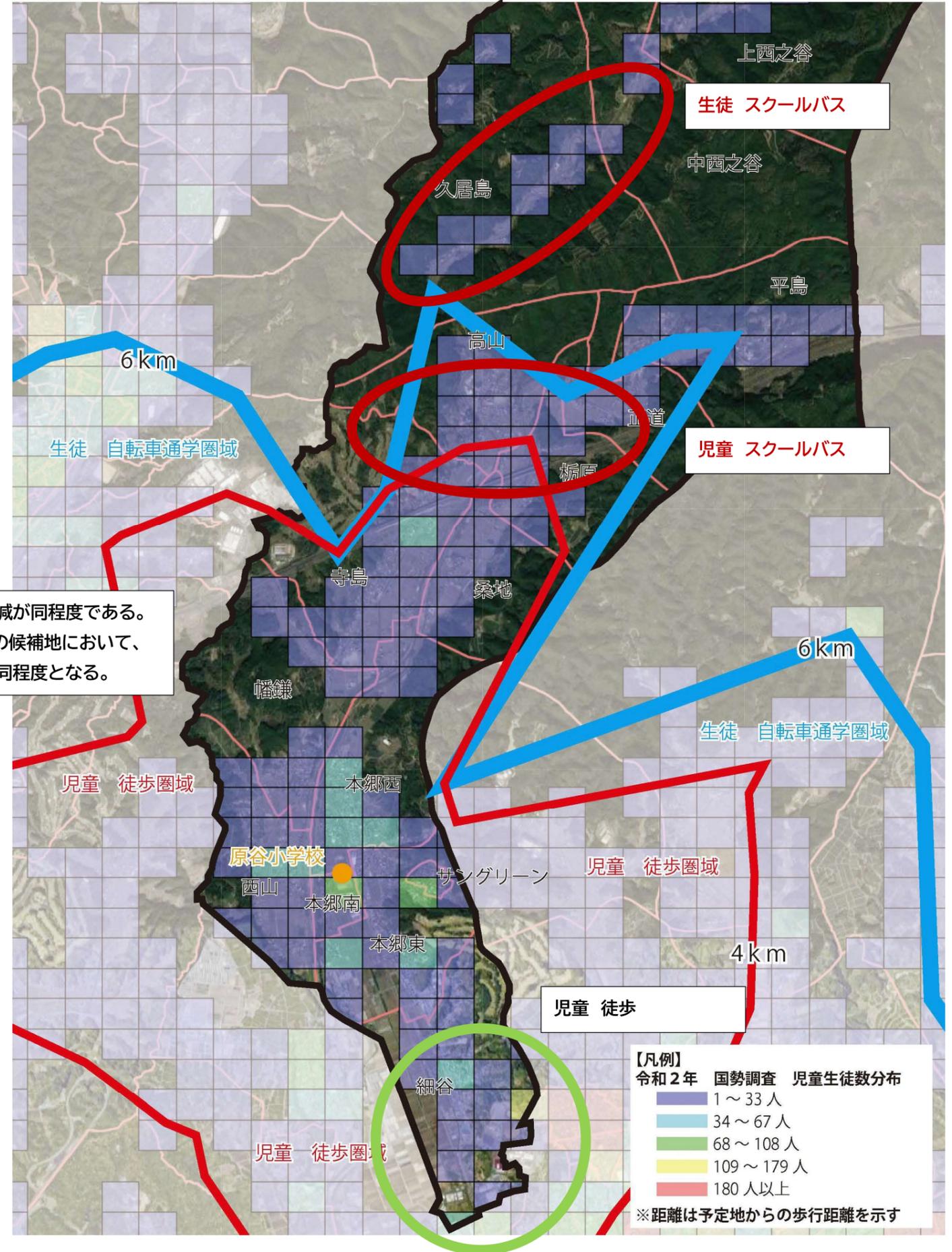
※通学手段の圏域割合は、令和2年度の人口分布状況と候補地からの距離で設定

※黄色ハッチは、スクールバス通学となる可能性のある行政区を示す

【候補地1：原野谷中学校】



【候補地2：原谷小学校】



スクールバス対象となる児童生徒数の増減が同程度である。よって、原野谷中学校および原谷小学校の候補地において、スクールバスの通学となる児童生徒数は同程度となる。

原野谷中学校通学路（南部）



液状化対策について

■液状化対策の概算工事費・概算工期

建物基礎（校舎、体育館）および避難所（グラウンド、駐車場）の液状化対策

1. 固結：深層混合処理工法（CI-CMCI工法）

○液状化対策の対象施設（校舎・体育館）

- ・校舎：9,790㎡（建築面積：3,300㎡）
- ・体育館（小学校）：900㎡
- ・体育館（中学校）：1,150㎡
- ・上記建築面積の合計：5,350㎡

○概算工事費・概算工期

- ・概算単価：80,000円/㎡
- ・概算工事費：428,000千円（税抜き）
- ・概算工期：約3ヶ月（杭工事の代替）

2. 締固め：静的締固め砂杭工法（SAVEコンポーザー）

○液状化対策の対象施設（グラウンド・駐車場）

- ・グラウンド・駐車場等の仮定面積：15,000㎡

○概算工事費・概算工期

- ・概算単価：12,000円/㎡
- ・概算工事費：180,000千円（税抜き）
- ・概算工期：約3ヶ月

県道掛川天竜線と焼津森線・大和田森線の混雑状況について

1. 県道掛川天竜線の交通量

(1) 道路センサスによる交通量調査の結果

	令和3年		平成27年		平成22年	
	日中	AM7時台	日中	AM7時台	日中	AM7時台
上り	5,024	598	4,677	625	4,341	620
下り	4,960	775	4,589	782	4,718	373

※日中は午前7時から午後7時までの間の交通量

日中1時間ごとの交通量（令和3年度調査）

	7時	8時	9時	10時	11時	12時	1時	2時	3時	4時	5時	6時
上り	598	512	429	392	303	319	379	355	492	432	418	395
下り	775	554	390	416	332	269	384	308	336	374	418	404

※新東名開通（平成24年3月）以後、日中の交通量は微増している。

7時台の1時間の交通量は下りが倍増（H22→H27）している。8時台からのシフト？

(2) 本郷南交差点の交通量調査

現地調査（R6.1.25/1.26）の結果、昼間時間帯のうち最も交通量の多い7時台においても、本郷南交差点における南北方向の通行車両については1回の信号で通過できない車両は発生していない。

他の時間帯に比べて走行台数が多いことから通過スピードは低いが、渋滞と言えるような状況は発生していなかった。

(3) 原野谷中学校入口交差点の交通量調査

現地調査（R6.1.25/1.26）の結果、7時台において1回の信号で通過できない車両が発生したケースが2回あったが、概ね1回の信号で通過できていた。

掛川天竜線の原谷側から大和田森線へ右折する車両については、午前7時台においては1回の青信号の間に平均2台であり、右折帯に収容できない車両が出ることや、1回の信号で右折できない車両が発生することはなかった。

2. 県道焼津森線の交通量

(1) 本郷南交差点の交通量調査

午前7時10分くらいから1回の信号では通過できない車両が出始める。

午前7時30分くらいからは最大で30台以上の車が信号待ちで停車し、通過するまでに3回信号を待つ状態が発生した。（信号の1回のサイクルが約2分であるため、通過までに約6分かかっている）この状態は7時30分からの約15分程度の間には発生しており、7時45分以降は1回待ち程度で通過できるようになった。

上記の結果から、県道掛川天竜線については、通勤時間帯の交通量は他の時間帯と比べて多いもの、渋滞が発生するような混雑具合ではないことが確認された。
県道焼津森線については、信号待ちのための滞留が発生するため通過に時間を要していることが確認された。

【調査地点①】



【調査地点②】

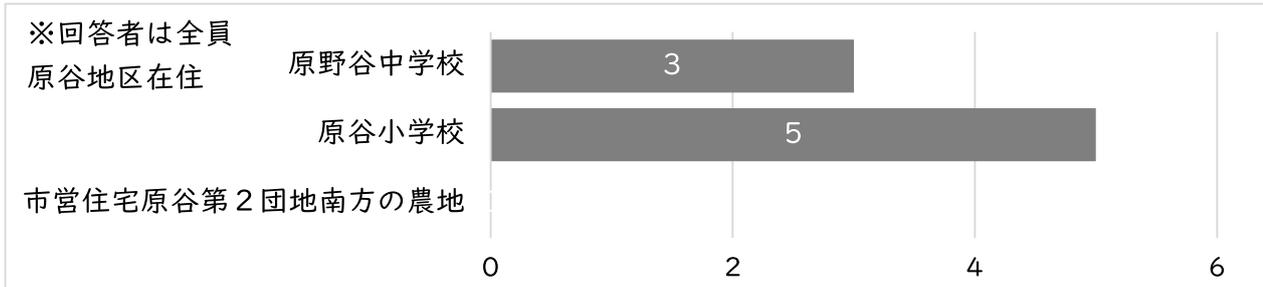


【原野谷学園新たな学校づくり】 2/2～3 保護者座談会アンケートまとめ

1. 参加者内訳（合計 15 名）



2. 学校の建設地について（回答者 8 名）



<理由・コメント>

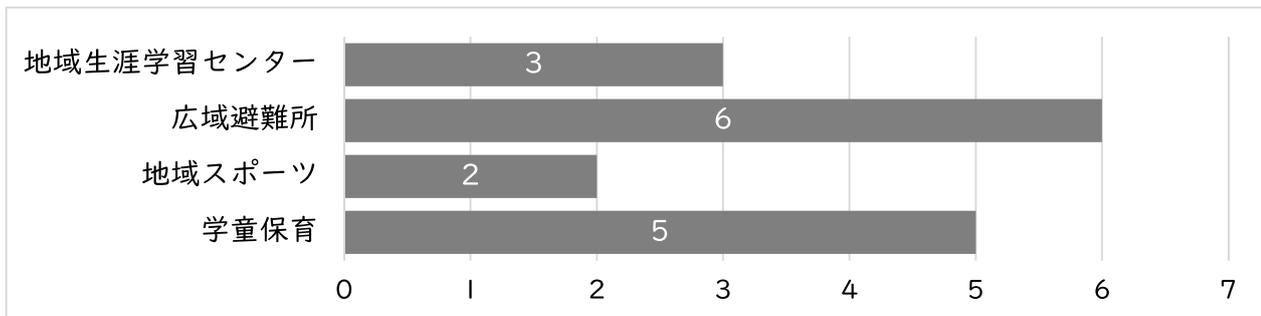
【原野谷中学校】

- ・ どちらの地区も中学生になれば通うと認識していた場所だから
- ・ 既存体育館を活かせる。かかるお金を減らしたほうがいい
- ・ スクールバス等子どもの負担を減らしたい

【原谷小学校】

- ・ 通学にあたり人数が多い原谷の子どもが移動するのは大変（2）
- ・ 学区を広げることを考えると原谷小の位置のほうが良い（2）
- ・ 家から近いため
- ・ 現在の原谷小では狭いと思うが道路を挟むと大変なので、
南側の市営住宅を北側にずらして、市営住宅の敷地に学校を建てたらどうか

3. 複合したい公共施設について（回答者 8 名）



<理由・コメント（○複合したい、×複合は不要）>

【地域生涯学習センター】

- お年寄り含め地域の人と交流できる方が良いから
- × 必要性が感じられないので利用目的や意義を提示してほしい

【広域避難所】

- 場所や広さが向いている
- 震災が多いので必須してほしい

【地域スポーツ】

- × 高齢者のグラウンドゴルフ等も含まれるのなら他の場所があるので一貫校にその役割は必要ない

【学童保育】

- 同じ敷地内で子どもを預けたい（２）
- 働く親が増えているのであると助かる（２）

4. その他ご意見等

<通学>

- ・ 2km～4km を小学生が歩かなければいけないことに疑問
- ・ 元々原谷小の近くに住んでいるのに急に学校の場所が変わるから3、4km 歩けと言われても抵抗がある
- ・ 天浜線の利用も条件次第ではいいと思う
- ・ もっともっと噛み砕いた言い方で、通学距離の説明なども具体的に地区名を言って欲しい
- ・ 該当する保護者は、学校の場所がどこになってもまずは通学方法や安全性が1番心配な部分だと思う

<建設地>

- ・ 建設費用や農地転用などの建設に対する手続きにしかメリットが感じられず、一貫校完成までの優位性でしか考えられていないのではないか
- ・ まだ建てるどころの候補の段階で話を聞いても漠然とした意見しか出ないと思った。場所を決めて頂いてから、それから住んでいる方に色々な意見をもらうようにして欲しい
- ・ ここだとこれが出来て、これが出来ないなど、もっと検討中での比較できるものがあるならば教えていただきたい

<保護者向け説明会>

- ・ 意見を直接伝えられる場はとても大切だと思うので、今後も定期的を開催して欲しい
- ・ 緊急で予定の調整がしづらかったので早めに日程を調整してしっかりと伝えてほしい
- ・ 地域全体の説明会は保護者が参加しにくいため敷居を少しでも低くする努力をしていただきたい
- ・ リモートなどでの配信も必要だと感じる
- ・ こういった会を開いて頂けるのは嬉しい
- ・ 子供の託児がないとなかなか参加したくても考えてしまう

<その他>

- ・ 避難する時の安全性をもっと分かりやすく説明して頂きたい
- ・ 根本的に子供が今後増える可能性が低い中、小中一貫校を作るメリットがいまいちわからない

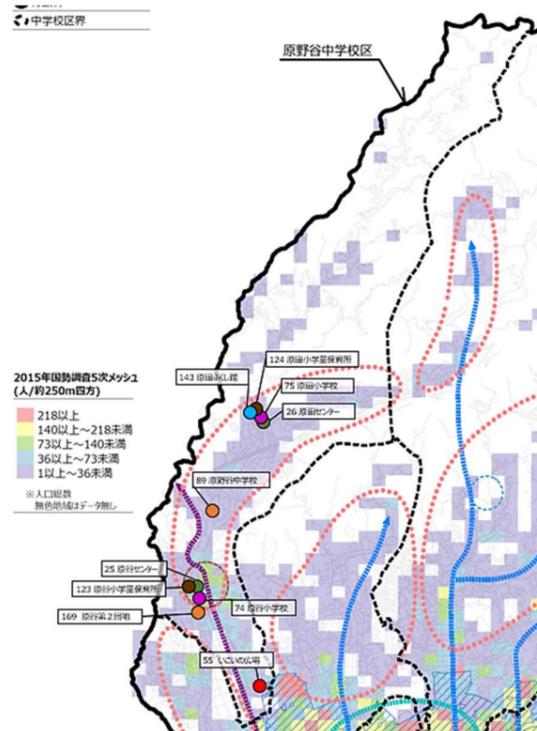
複合施設機能の検討について

1. 検討対象施設

◆対象施設と施設利用状況

施設・機能	現在の場所		利用状況（利用者、年間利用日数、年間利用者数等）※R04実績		
			利用者	利用日数・回数	利用者数
1 原谷小学童保育所	原谷小		学年：1～3年 登録児童数：44人		
2 原田小学童保育所	原田ふくし館		学年：1～6年 登録児童数：25人		
3 原谷地域生涯学習センター	原谷小隣接敷地		地区民	149日/年	2,709人/年
			まち協スタッフ		
4 原田地域生涯学習センター	原田小		地区民	136日/年	1,890人/年
			まち協スタッフ		
5 原田ふくし館	原田ふくし館	世代間交流施設	原田地区住民	85回/年	515名/年
		いやし処ほのぼの	市内外の高齢者	355日/年	約7,500名/年 (各月平均) 21.04名/日 ※定員30名/日
7 地域スポーツ	原谷小(体育館・グラウンド)		一般、スポ少	204日/年	5,992人/年
	原田小(体育館・グラウンド)		一般、スポ少	78日/年	2,357人/年
	原野谷中(体育館・グラウンド)		一般、中学生	170日/年	2,659人/年
6 広域避難所	原谷小		対象地区：7 対象人口：943 ※人口の25%が要避難と算出		
	原田小		対象地区：8 対象人口：213 ※人口の25%が要避難と算出		
	原野谷中		対象地区：2 対象人口：143 ※人口の25%が要避難と算出		

◆対象施設の位置



<①原田小周辺>

施設・機能	現在の場所	主要棟の建築年
1 原田小	原田小	1981年(42年)
2 原田地域生涯学習センター	原田小	1982年(41年)
3 原田小学童保育所	原田ふくし館	1985年(38年)
4 原田ふくし館	原田ふくし館	1985年(38年)
5 広域避難所<機能>	原田小	
6 地域スポーツ<機能>	原田小	

<②原野谷中周辺>

施設・機能	現在の場所	主要棟の建築年
1 原野谷中	原野谷中	1961年(62年)
5 広域避難所<機能>	原野谷中	
6 地域スポーツ<機能>	原野谷中	

<③原谷小周辺>

施設・機能	現在の場所	主要棟の建築年
1 原谷小	原谷小	1972年(51年)
2 原谷小学童保育所	原谷小	1972年(51年)
3 原谷地域生涯学習センター	原谷小隣接	1985年(38年)
4 広域避難所<機能>	原谷小	
5 地域スポーツ<機能>	原谷小	

2. 対象施設・機能の選択肢

◆「原野谷中に小中一貫校建設」の場合

施設/機能	現在の位置	選択肢	備考
学童保育所	原谷小 原田ふくし館	①小中一貫校に 統合・複合化	対象学年や開所期間等の調整が必要
		② 既存施設のまま存置	終業後の移動方法や将来建物を更新する必要が出た際にどう対応するか要検討
地域生涯学習センター	原谷小隣接敷地 原田小	①小中一貫校に 複合化	原谷・原田地区での使用ルール決めが必要
		② 既存施設のまま存置	将来建物を更新する必要が出た際にどう対応するか要検討
広域避難所	原谷小 原田小 原野谷中	①小中一貫校に 統合	避難場所としての機能は学校跡地等で確保
		② 既存のまま存置	-
地域スポーツ	原谷小 原田小 原野谷中	①小中一貫校に 統合	-
		② 既存のまま存置	将来建物を更新する必要が出た際にどう対応するか要検討

◆「原谷小に小中一貫校建設」の場合

施設/機能	現在の位置	選択肢	備考
学童保育所	原谷小 原田ふくし館	①小中一貫校に 統合・複合化	対象学年や開所期間等の調整が必要
		② 既存施設のまま存置	終業後の移動方法や将来建物を更新する必要が出た際にどう対応するか要検討
地域生涯学習センター	原谷小隣接敷地 原田小	①小中一貫校に 複合化	原谷・原田地区での使用ルール決めが必要
		② 既存施設のまま存置	将来建物を更新する必要が出た際にどう対応するか要検討
広域避難所	原谷小 原田小 原野谷中	①小中一貫校に 統合	避難場所としての機能は学校跡地等で確保
		② 既存のまま存置	-
地域スポーツ	原谷小 原田小 原野谷中	①小中一貫校に 統合	原野谷中の体育館は比較的新しいことから、活用方法について検討が必要
		② 既存のまま存置	将来建物を更新する必要が出た際にどう対応するか要検討